

見ていることによつて、疲れる子どもたちについては、これはおとながみるものだから、子どもは寝ましよう、目を塞ぎ、耳を塞ぐことはできないと思ふのです。

この点については、両親教育の指導が必要になつてきます。

放送を利用して保育の効果をあげるのに、放送に対する教師の意識が問題となると思ふのです。

何事もそうであるように、教師の意識のあるなしによつて、子どもは、どんなにも左右されます。放送に興味をもつようになるのもしかりです。

その教師が、意識をもつ、もたないについては、もちろんその教師自身の考え方、あるいは熱意、意欲、研究心その他に、よることですが、いくら熱意、意欲があり、研究心があつてもその裏づけとなる費用がなければ、施設をすることもできず、結局したくてもできないという結果になつてしまふと思ひます。が教師に熱意と意欲があれば、その施設は必ずやできるのではないでしょうか。

なぜなら、その熱意、意欲が周囲の人たちを動かすことができると思ふのです。ですが、その周囲の人たちが教育に関心

をもち、教育に対して積極的に、いろいろの面で協力を惜しまない人たちならば、問題は無いのですが、無関心な人でも、その教師の眞の熱意や意欲を感じとつて動くようになれるのです。

逆に、そういう人たちを動かすような熱

△南千住第二幼稚園▽

自然の環境設定 (三三・三七)

上野初枝

1. 地域の実状を知る

幼児は身近かの事物を直接見たり、聞いたり、さわったり、たたいたり、匂いをかいたりして観察する。それでその環境により見るもの聞くものが変わつて来るわけである。子どものうちに、なるべく豊富に何でも経験させることは、大変望ましいことであるが、この地域では、なかなか充分な経験を与えることは困難である。それは当園の通園地域が、一方は隅田川に、一方は隅田川駅という大きな荷物駅に、またもう一

意がほしいと思ひます。

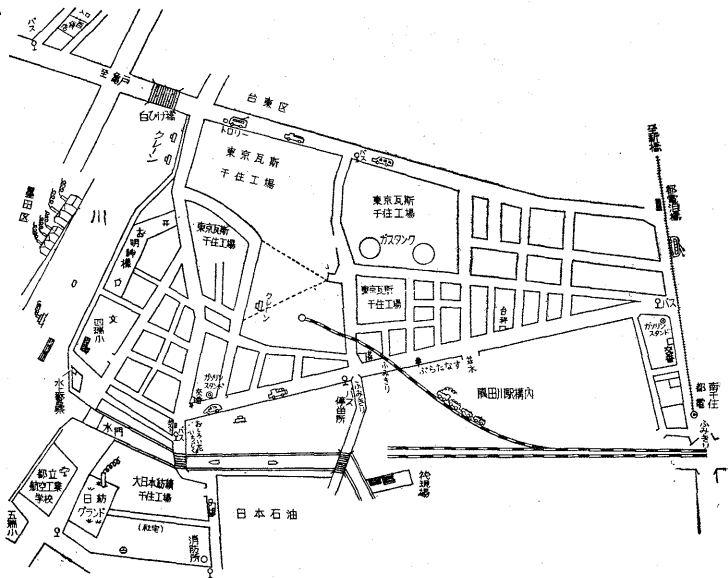
われわれ教師は、伸びる子どもたちのために、何事にも打ちこんで、研究し、反省しながら一歩一歩をふみしめて、山の頂きを目指して進んでいきたいと思ひます。

方は乗り物のはげしい区境の大通りにと、こうした三辺にかこまれた特殊な地域であるからである。

そこで、このような地域にある当園としては、どのように環境を整え、どのようなことに関心や興味を持たせていくか、というところが、まず第一の課題である。

第一に自然に関し、当園の地域の実情をよく調べてみて、何があるか、何が不足か、ということを知りたいと考へたのである。そこで手始めに、自分たちの最も手近なところから、ありのままの姿を記録して

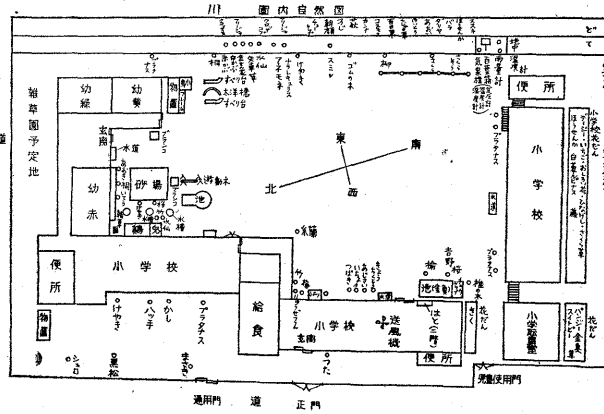
いくことにした。
 (1) 園内(校内)の自然地図の作成(下の図参照)
 園の中にある一本の木でも草でも書き止



の状態が一目で分かることになる。また作成後も一つ一つ新しい事実を発見したときは、その都度書き入れていくと次第にわかりやすい自然地図ができていくわけである

めていくと、こんなところに、こんな木が、これは何という草かしらと、私たちがですら疑問を持つものがたくさんある。先生のこうした態度はひいては、子どもにも大変よい影響を与える。こうして作られた自然地図によって、一目して園内の自然の状態をすることができるといける程度のところおよび子どもの通園区域の自然地図である。何月頃どこまでいけば、虫が取れる。乗り物を見るのはどこがよいか、あるいは見学するところが一目で分り、この方面の指導の資料として大いに役立つ。

(2) 地域の自然地図作成(上図参照)
 この図は園から子どもが歩いていける程度のところおよび子どもの通園区域の自然地図である。何月頃どこまでいけば、虫が取れる。乗り物を見るのはどこがよいか、あるいは見学するところが一目で分り、この方面の指導の資料として大いに役立つ。



(3) 家庭環境調査
 それではこの園に通って来る子どもの家庭環境はどんな状態であろう。家庭の状況の特色は、職業の点では運転手・人夫・工員の肉体労働者が四〇%をしめている。学歴では父母とも中卒、高小卒が六〇%をしめていること、住宅の畳数で

も五〇%の者が六畳、四・五畳の二間以下に多人数で住んでいる。自然の環境のことは次の章で取りあげるが、ないものだけをかくと、

お宅では室または家の中にお花をかざり
ますか。いつも飾る四三% とときど
き五三% ない四%

お家で何か動物を飼っていますか。

います五四% 飼ったことがある三九
% ない七%

お子さんを海や山、川に連れていったことがありますか。ある九三% ない七%

2. 自然に対する本園の実態

(1) 恵まれている点

前の自然地図や家庭調査から園として恵まれている点をさがしてみると、第一に名に負う隅田川がすぐ横を流れ、舟のいろいろ、珍らしいものでは筏も見られる。潮の干満、水門、大きな橋も見られる。石炭、煙突ならばどこを向いても見られ、その他機械類ではガスタンク、クレーン、トン秤など珍らしいものもあり、貨車、機関車、トラック、石油車、オート三輪、バスなどの乗り物が豊富に見られる。最近トローリーバスが区境を通ることになったので、種類

が一つふえたわけである。また少し遠いが航空学校までいけば飛行機の模型もある。

家庭ではトラック、オート三輪、自動車スクーターを持っている家が二一%、自転車のある家が七四%である。土地柄石炭業、運送業が多いので道路に車の姿が見えないときはない。

日紡グラウンドは唯一の草原で虫取り、つみ草に大切なところである。また上野動物園への交通の便がよいので百%の子どもがこれを見にいっている。

(2) 恵まれない点

恵まれない点といえば、町に花屋が一軒もなく、並木や学校の木は美しい黄色、赤色になって落葉せず、みどりの葉からすぐ茶色になって落ちる。空気が悪いのがその原因ではないかと思われる。ガス会社のそばの家庭は、ガスクイ中で生活し、洗濯物もほこりで乾かないうちによごれてしまう状態である。

家庭でも庭のある家は、三九%しかなく、その庭も家業でものを置くなどというの含まれている。植えてある木や草も数が少なく、美しい花が咲いたり、実がなったりするようなものは、殆んどない。また子どもの遊び場がないので、交通のはげし

い道路や、たまには危険な駅構内にはいつて、遊んでいるような状況である。

子どものあそび道具でみると、動くおもちゃ、六五%、楽器七四%、虫眼鏡、計り、磁石などある家は七四%、それで遊ぶ者四二%、で科学的なものを使ってあそぶ度が低いのではないかと思われる。

つまり植物や季節のうつりかわりを知るということが、恵まれないものの大部分である。

今までの園の子どもの様子はというと、美しい花が咲いた『きれいなあ』と見る前に、あつ、という間につみ取ってしまった。珍らしく「とんぼ」が花に止まった。そつと見ましようつと、よつていくつと、やにわにつかまえ、次の瞬間にばらばらにしてしまふ。美しい切り花を飾ってもあまり関心もない。たまに関心を示すと「先生この花いくら?」という状態であった。

3. 自然に対する環境設定

これで本園の実情が分つたわけである。恵まれている点は、これを大いにいかし、またかけているものだけでは園で経験させたいと考えたのである。子どもたちが地域的に片よつた経験に終らないよう、恵

まれている点、かけている点をどのように取り上げていくかを苦心した。これはカリキュラムの面で大いにかしてあるつもりである。

このようにカリキュラムを組み、必要なものを書き出し、当園職員および小学校職員父兄の協力のもとに、一つ一つ形づけて作成した。これは金銭と関係の深いものだけに、そうなんでも簡単にはいかないものもある。作ったものの順序は前後するが庭の方と屋内に分けて記すことにする。フレーム・砂場のような、どの園でもあるものはぬきにして、当園のとくに苦心した点や、変っている点などの特色あるものを上げていくことにする。

(1) 園庭

○花壇 川岸の土手には小学校の各学年が場所を区切り草花を植えているので、幼稚園も場所を分けていただいた。ところが土手が高く狭いので多くの子どもが手伝うというわけにはいかないで、きくのような下から見られるものを植え、土手の下、柵いっぱい低くこしらえた。子どもたちに土や腐植土を運ばせ、土をほぐす、種子まき、毎日の水かけ、霜除けの糞をかぶせるなどの手伝いをさせている。

また学校の花壇が広く、草木の種類もたくさんあるので、いつも見せていただく。

こんなところは併設幼稚園の大変よい点である。庭に前からある草花は石で囲んで存在を明らかにし、子どもたちが毎日花壇やフレームに水をやるとき、いっしょにやるようにしている。去年は花も葉も折られてしまったが、今年は始めの一輪(水仙)だけが折られただけで、あとは美しい花が咲くと、子どもたちは匂いをかいだり、ながめたりしてよろこんでいる。

○小雑草園 砂場の横の丸いセメント管はもとは防火用水池だったのであるが、一つは雑草園にし、園長先生からいろいろの草をたくさんいただき植えたり、また遠足にいったとき、根ごと取って来て植えたりした。子どもたちはきれいな花を見つけると根ごと取る者が多くて困った。最近はその草も枯れたので、小さなかわいらしい花を植えてある。

○金魚池 遊動円木のそばの池はもと、丸い部分だけであったが、小鳥小舎をどかして大きくし、金魚やめだかを入れ、大勢で四方から見られるようにした。水のないときはうさぎといっしょにはいって遊んだり、夏の水あそびのときはプールにして遊

ぶ。

○小鳥・兎・鶏 毎日の飼育は、たいへんなものでその点小学校の飼育係の児童がよく手伝ってくれるので、この点も大いに助かっている。

○川を見る土手 大切な、そして恵まれた教材である川を今まで幼稚園から見せずにいたが、二学期に学校の隅の、神社よりのところに土手を造り、自由あそびのときは自由に見にいき、あきずに舟に見とれたり、かぞえたり、大小比べたり、舟が作る波をよろこんだり、また川の水の多いすくないなどに気づいたり、舟の人に手をふったり、はては呼びかけたりしてたのしんでいる。

また向側の工場のたぐさんの煙突の煙で風の方向を知ったり、土手のおかげでいろいろのことが観察されるようになった。

その他学校の池・風速計・雨量計・気象旗など子どもの目にふれるものは、その都度使わせていただいている。

(2) 屋内

○観察台 窓ぎわの観察台も小学校のまま窓いっぱい高く、川に面した部屋ではそこに乗って、川を見て困り、研究の始まる前は、川を見せまい見せまいとしたものであった。今度この観察台の中を広くし、低

く下げて水栽・水槽・小鳥・植木鉢などを
ならべて観察させるようにした。

観察台の下は柵にして、子どもたちの製
作物や材料をしまうようにした。

○小鳥 十月始めに三種類の小鳥を、一つ
がいずついれ、各組においた。これも初め
は子どもたちが「鳥のヤロー」とかごを四
方からたたいて、カナリヤなど尾を何本も
ぬいたりしたが、今ではきそって水を取り
かえたり、餌の世話をしていたわるようにな
った。小鳥も部屋の空気になれ保育中にも
も美しい声でさえずり、思わず子どもも先
生も声をひそめて、聞きはれていることも
ある。

○切り花 季節の花も、同じ種類のもの
なく、置場も子どもたちと相談してきめて
いる。水の取りかえや自分たちの組に配ら
れた花をすぎなようにいけたりしてたのし
んでいる。

○水槽 金魚・亀・でんでん虫・えびがに
・おたまじゃくし・秋の虫など飼ってみた。
金魚は年中生きていて冬の間静かにしてい
る様子がよく観察できた。金魚・亀・秋の
虫を飼ってそれぞれ餌の違うことも経験す
ることができた。

○動く玩具 子どもの大すきな玩具の一つ

に動く科学的なものがある。家庭では六五
%のものが持っているが、大部分はゼンマ
イ・はずみ車のものである。そこで幼稚園
では、ゼンマイ、はずみ車をはじめね・
電池利用のものを揃え遊ばせている。都合
により数が少ないので保育上困るときもあ
る。またこわれた科学的玩具も家庭から持
ちよって置くと子どもたちは玩具の中の構
造を見たり、いじったりして遊んでいる。
○その他 ままごと道具、人形などは教師
が設計して作らせたり、母親に作ってもら
ったりした。

こまかい機具・道具はカリキュラムを見
て、単元ごとに何が必要か、不足か、とい
うように記していき、園で買うもの、家庭
から持ち寄って間に合うもの、とに検討し
て材料をそろえていった。また自然物を使
って遊ぶことは、誠に不自由で、たとえば
落ち葉でも学校に落ちたのを拾って押し葉
にし、先生方が自分の家の方からたくさん
持ちより、子どもたちと交ぜてあそばせ
るとか、遠足にいったとき、松ぼっくりを
拾って来て工夫して遊ぶ、中味を食べた貝
であそぶなど苦心している。

金銭的にもあまり恵まれないので、子ど
もたちに工夫させる意味で、各家庭の協力

で空箱・空びん・包み紙・ひも・布きれな
どあらゆる廃品を集めて、それで思うよう
に作らせた。

4. 今後の課題

まだまだいたらぬ点が多々あるが、今後
やりたいことは、小鳥小舎の中に木を植え
て、なるべく自然の姿で見せたい。スライ
ドやフィルムの写真が、保育室で簡単にで
きるようにしたいなどいろいろあるが、一
番やりたいことは、子どもたちが自由には
いって遊べる雑草園を造ることである。今
園舎の北側に少し土地があるので、せめて
夏の間だけでも何か青い草があれば、と思
っているが、高い代金を払って土を買って
来ないと、雑草も生えない土地柄なので、こ
れも大変である。庭にあるセメント管(水
槽)の二つに金網のふたができた。今年はお
たまじゃくしをいれたり、かえるやかめ
の冬眠など観察させたいと思っている。
今年はこのようにたくさんのもので作っ
たが、今後はこれを十分に活用して、子ど
もたちに「自然」に関する豊かな経験をも
たせるよう研究したい。
なお、以上の施設、設備につき改良した
り、新設していきたいと考えている。